

## ウィンザー城の堀庭園とノルマン塔

目の前に広がるすばらしい堀庭園は、そもそも約一千年前、征服王ウィリアムの支配下にあるサクソン労働者によって、防衛用に掘られたものである。ウィリアム王は、1066年にイングランドを征服してから、防衛を目的として小高い所に要塞となる天守閣を構築する必要があった。現在では、空堀となつてしまい、普通の堀に見られるように水は湛えられていない。その空堀には間もなく野生の植物が繁茂し、遂に、1319年には、イラクサを刈り取るために、5人の女性が日当1ペニーで雇われた。

イングランドが安定するにつれ、防衛の必要性も薄れ、庭園は一層人目を引くようになった。そしてその堀庭園は、歴史に記録されるような存在になった。例えば、スコットランドのジェームズ1世は、青年の頃、このウィンザー城に幽閉されたことがあり、彼の詩で、サマセット伯爵の娘であるジョーン・ボウフォートが堀庭園を散策しているところが描かれている。彼は彼女を恋してしまい、彼がウィンザー城から釈放され、スコットランドに帰る前に、真心をこめてのロマンチックな流儀で彼女と結婚した。彼がウィンザーに囚われていた時のことが、「ハーベア」という円塔の上のへりにある小さなあずまやに記録されている。

今日、庭園には溢れんばかりの古い石像やガーゴイル、それに教会に関するシンボルが見られる。最も古い石像のうち、サクソン時代にさかのぼるが、16世紀に、ヘンリー8世の命令によって修道院が解散し、レディング大寺院も潰されてしまい、その一部がテムズ川を下って運ばれてきたものである。この庭園の南に位置する石庭はエドワード3世塔の周囲にオリジナルなガーゴイルが巡らされているのが見られる。

現在、堀庭園は、ノルマン塔に住むウィンザー城守兼司令官の私有地である。ノルマン塔は1360年に建てられ、1588年と1748年に増築され、ジョージ4世によって城の改装がなされている間、ウワイヤットヴィルによって、最終的に外装もゴシック風に一新された。

庭園は20世紀の初めに、エドワード7世の国王手元金管理官を務めたサー・ダイトン・プロヴィン將軍によって新しく設計され、今日の景観を呈することになった。エドワード王は20年以上、このノルマン塔でお住まいになられた。プロヴィン將軍は、丘をテラスに戻し、小道や芝生を作り、滝や、セント・ジョージの岩屋、噴水テラス、イチジクの木をあずまや、ポエツコーナー等を見事にアレンジし、特色を創り出した。彼はまた、サンドリングから赤褐色の丸石を取り寄せた。彼によって導入された庭園の特色の幾つかは、特にパーゴラとか、ラヴェンダーの散歩道は今日、姿を消してしましたが、彼による本質的なレイアウトは残っている。ごく最近の1993年に、ユリの池が作られた。それは円塔の造作のために設置されたクレーンの土台をカバーするためのものであった。1994年には円塔の横につけられたシェルター、これはもともと、プロヴィンのデザインによるものであるが、復元されている。その後のウィンザー城の各城守は、今日の美しい光景を作り出すために、堀庭園の進化に貢献してきている。

堀庭園の開園から得る収益は、ウィンザー地区の慈善団体及び青少年の組織に寄付されています。